

2024 年度事業報告

農業農村工学は、「水土の知」という歴史と学術/技術の振興に基づいた STEAM 教育を推進し、人材を育成している分野である。この学会の目的達成のため、定款の定めるところにより、事業計画に掲げた次の事業を実施した。

I. 調査と研究の推進

1. 研究部会による調査・研究

14 研究部会がそれぞれの事業計画に基づいて調査・研究を実施した。研究集会等を開催したほか、6 研究部会が部会誌を発行した。

部 会	部 会 長 (所 属)	会 員 数 (名)	研究集会 等の開催	部会誌発行
応 用 水 理	桐 博英 (農研機構)	55	11月28日	令和6年度「応用水 理研究部会講演集」
土 壌 物 理	斎藤 広隆 (東京農工大学)	79	10月18 ～19日	
材 料 施 工	近藤 文義 (佐賀大学)	35	3月7日	「材料と施工」 No. 62
農 村 計 画	遠藤 和子 (農研機構)	50	11月7 ～8日	農村計画研究部会活 動記録
農 業 水 利	松井 宏之 (宇都宮大学)	15	2月15日	
農 地 保 全	藤川 智紀 (東京農業大学)	39	9月11日	第42, 43号
畑 地 整 備	中村 公人 (京都大学)	56	9月10日	
水文・水環境	清水 克之 (鳥取大学)	120	11月15 ～16日	「応用水文」 No. 37
農 村 道 路	兵頭 正浩 (鳥取大学)	34	11月18日	「農村道路」34号
水 土 文 化	渡邊 紹裕 (京都大学名誉教授)	8	6月21日	
資 源 循 環	山岡 賢 (琉球大学)	512	9月12日	
農村生態工学	角道 弘文 (香川大学)	60	9月11日	
農業農村情報	溝口 勝 (東京大学)	54	9月11日	

2. 新たな研究ニーズへの対応

学会の研究活動の発展に対して新しい芽になる研究を行おうとする研究グループの募集を行い、1件の助成を行った。

代表者	所 属	研究テーマ
平嶋 雄太	佐賀大学農学部・技術員	宇宙線土壌水分観測法の火山灰質土斜面への応用

また、研究活動が戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献することを目的とした戦略的研究申請支援の募集を行い、1件の助成を行った。

代表者	所 属	研究テーマ
乃田 啓吾	東京大学・准教授	多様な主体による水インフラの持続的運用システムの構築

その他、明治用水頭首工の事故を踏まえた農林水産省からの土地改良施設管理基準「頭首工」の改定や農業用ダムの保全に資する新技術の調査等を受託し、調査検討を行った。

3. 学術基金等による調査研究の奨励

(1)学術基金による調査研究を奨励するため公募を行い、学術基金運営委員会による審査を経て、下記のとおり援助者を決定し、資金を助成した。

また、新たに持続可能な農業農村工学教育のため「技術者育成のための調査・研究費」を学術基金から公募により必要な大学に支援する学術基金制度の拡充を行った。

さらに、学術基金への寄付活動も行った。

【学術基金の選定条件】

- ① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進
- ② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進
- ③ ①，②以外の分野および学際的分野に関する調査・研究の推進
- ④ 国際学術会議への出席等の国際交流の推進
- ⑤ 若手研究者の育成の推進
- ⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進
- ⑦ 技術者育成のための調査・研究の推進

申請者	所 属	研究テーマ	選定条件
柴野 一真	新潟大学大学院自然科学研究科・博士後期課程	国際共同研究による農業水利施設の非破壊損傷度評価法の開発	③、⑤
升田 直希	佐賀大学大学院・院生	干拓農地における水分・塩分環境の態様の変化の解明	⑤
岡島 賢治	三重大学大学院生物資源学研究科・教授	礫質土柑橘園場における土壌水分状態の計測手法と効率的な水管理技術の開発	③
佐藤 周之	高知大学・教授	R C 開水路の無機系補修材の表層品質評価方法に関する研究	③

武山 絵美	愛媛大学大学院農学研究科・教授，学長特別補佐	地方大学において技術者育成プログラムを持続的に発展させるための必要条件の解明	⑦
佐藤 周之	高知大学・教授	地域を志向する地方大学における技術者教育体制構築のための基礎調査・研究	⑦
前川 洋貴	大阪公立大学大学院・D2	水田農業が河川流況に与える影響の定量的評価	⑤
上野 和広	島根大学・准教授	長期供用ダム・ため池堤体の年代効果が地震時強度低下特性へ及ぼす影響の解明	①
吉澤 剛禎	農研機構農村工学研究部門・研究員	打撃反射波を用いた地すべり抑止杭の健全度評価手法の開発	⑤
安倍 亮太	大阪公立大学大学院	ウンシュウミカン樹の水ストレス評価に関する研究	⑤

(2) 学生が博士課程で取り組む研究課題の決定と募集

研究委員会「博士人材育成研究小委員会」は、日本水土総合研究所等と連携して、博士課程で取り組む研究課題の募集を行い、修士課程2年生を対象に4つの研究課題を定め、4名の学生の支援を決定し、2025年度の研究助成金を支出した。また、2022年度開始の1名、2023年度開始の1名についても研究助成金を支出した。

さらに、修士課程1年生を対象とした2026年度開始の研究課題の募集も行った。各開始年度の支援対象者は次の通り。

開始年度	当初	途中辞退	現在または最終
2022年度	4名	3名	1名
2023年度	2名	1名	1名
2024年度	7名	2名	5名
2025年度	4名		

4. 社会的状況を踏まえた学生会員への支援

2024年3月13日に理事会を開催し、社会的状況を踏まえて学生会員の2024年度の年会費等を免除することを決定した。

II. 研究発表会、講演会、講習会、セミナー展示会等の開催

1. 大会講演会の開催

2024年度（第73回）農業農村工学会大会講演会は、ポストコロナの社会的状況を踏まえ、対面形式による現地開催とオンラインによる聴講を併用した方式で開催した。概要は次のとおり。

期 日 2024年9月10日（火），11日（水），12日（木）13日（金）
 会 場 弘前大学文京町キャンパスおよびオンライン
 参 加 者 1,221人（一般1,055（会場696、オンライン359）、学生166（会場142、オンライン24））
 挨 拶 大会運営委員長 藤崎浩幸
 学会長 西村 拓
 来 賓 挨 拶 青森県知事 宮下宗一郎
 農林水産省農村振興局次長 青山健治
 弘前大学学長 福田眞作（交流会）

学 会 賞 学術賞 1 件 1 名（西村伸一）

上野賞 2 件 4 団体（厚真町土地改良区・厚真町・北海道開発局室蘭開発建設部、愛媛県農林水産部農業振興局農地整備課）

沢田賞 1 件 1 名（橋本 禅）

研究奨励賞 4 件 4 名、優秀論文賞 1 件 3 名、優秀報文賞 5 件 20 名、優秀技術賞 1 件 5 名、優秀技術リポート賞 6 件 14 名、環境賞 1 件 1 団体、歴史・文化賞 3 件 4 名 2 団体、地域貢献賞 3 件 5 団体、メディア賞 1 件 1 団体、功労賞 1 件 1 名

一 般 講 演 9 月 10 日（火）～13 日（木） 9 会場＋オンライン（Zoom）

口頭発表 一般 280 課題、スチューデントセッション 37 課題、企画セッション 17 件 71 課題

ポスター発表 62 課題

ポスター賞の選考

【最優秀ポスター賞】鈴木隼人「沈水雑草の過繁茂抑制に向けた物理的防除法の開発」

【優秀ポスター賞・東北ポスター賞】鈴木麻里子「碎石副産物から作製したため池遮水材の耐震性に関する検討」

【優秀ポスター賞】杉本卓也「モデルマイクロプラスチック粒子の臨界凝集濃度への流れの効果」

【優秀ポスター賞】天川裕太「灌漑に伴う田面水の温度・窒素濃度分布の形成が米の収量・品質に及ぼす影響」

【東北ポスター賞】大西将嵩「トミヨ属雄物型の突進速度に関する実験的研究」

交 流 会 アートホテル弘前シティ・プレミアホール 360 人

現 地 研 修 2 コース 65 人（①西津軽コース 39 人、②南部コース 26 人）

①西津軽コース 3 カ所（屏風山地区畑地灌漑、県営十三湖地区自動給水栓、国営十三湖地区頭首工）

②南部コース 3 カ所（大川原地区水管理、奥入瀬溪流制水門、稲生川サイフォン・水管橋）

農業農村工学会ミニ動画コンテスト“こりゃ映像！2024”で「ここにあった！農業農村の未来」に関するテーマで募集し、9 件の応募があり、最優秀賞 1 件、優秀賞 3 件を決定するとともに表彰式を行った。

【最優秀賞】

・富山県農林水産部農業経営課 平井裕貴「農村の課題解決の先に」

【優秀賞】

・内外エンジニアリング(株) 高谷凜太郎・柿沼愛海「ここにあった！農業農村の未来～吾妻しいって E なぁ～」

・三重大学大学院 吉田 楓「農業農村工学って面白い～大学院生の写真フォルダーを振り返って～」

・九州大学大学院生物資源環境科学府 中村 遥・木原 昂「花の香酒造の取り組み「産土（うぶすな）」」

企 業 展 示 29 社（五十音順）

Re-パイプシステム工法協会、(株)安藤・間、NTC コンサルタンツ(株)、キャンベル・サイエンティフィック・ジャパン(株)、(株)クボタ・(株)クボタケミックス、(株)熊谷組、(株)ケネック、佐藤工業(株)、サンスイコンサルタンツ(株)、(株)三祐コンサルタンツ、J F E エンジニアリング(株)、(株)ジェイテック、ジオテツ工法研究会、昭和コンクリート工業(株)、SERID 研究会、(株)竹中土木、鉄建建設(株)、内外エンジニアリング(株)、日本工営(株)、日本基礎技術(株)、農業農村整備情報総合センター、農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究部門、(株)北陽、(株)ホクエツ、丸栄コンクリート工業

(株)、(株)水倉組、未来工業(株)、メータージャパン(株)、(株)ライトストーン

2. 各支部研究発表会、講演会、講習会等の開催

6支部において、それぞれ研究発表会、地方講習会、研修会及び人材確保・育成等に関する交流会等を開催した。

<各支部研究発表会>

(研究発表総件数 255 件、参加者総数 915 名、現地見学者総数 76 名)

支 部	開催月日	開催場所	研究発表者件数	参加者数	現地見学者数	本 部出席者
北 海 道 (第73回)	10月30日	札幌市 札幌エルプラザホール	21 件	80 名	— 名	森田 副会長
関 東 (第75回)	12月13日	さいたま市 さいたま新都心合同庁舎2号館	40	211	—	西村会長
京 都 (第81回)	11月19日	奈良市 奈良県コンベンションセンター	85	257	38	堀野 副会長
中国四国 (第79回)	10月16日	鳥取市 とりぎん文化会館	58	199	—	奥田 副会長
九州沖縄 (第105回)	10月31日 ～11月1日	福岡市 福岡県中小企業振興センター	51	168	38	奥田 副会長

<各支部地方講習会>

(参加者総数約 680 名)

支 部	開催月日	開催場所	テーマ	講師	参加者数
北 海 道	1月16, 22日	オンライン	食料・農業・農村基本法の改正について外4件	4 名	150 名
東 北	11月8日 ～公開終了日	オンデマンド	食料・農業・農村基本法の改正について外2件	3	—

関 東	12月13日	さいたま市 さいたま新都 心合同庁舎2号 館	食料・農業・農村基本法の 改正について	1	211
京 都	2月7日	オンライン	食料・農業・農村基本法の 改正について外1件	2	122
中国四国	10月17日	鳥取市 とりぎん文化 会館	食料・農業・農村基本法の 改正について外2件	3	79
九州沖縄	10月31日	福岡市 福岡県中小企 業振興センタ ー	情報化施工技術の活用ガイ ドラインについて	1	118

<各支部研修会>

(参加者総数約 212 名)

支 部	開催月日	開催場所	テーマ	講師 名	参加者数 名
北 海 道	10月29日	札幌市 札幌エルプラ ザ大研修室	みどりの食料システム戦略 の実現に向けた北海道の取 組	6	90
京 都	2月7日	オンライン	大規模災害時における業務 継続計画（BCP）の連携 について外1件	2	122

<各支部シンポジウム>

(参加者総数約 143 名)

支 部	開催月日	開催場所	テーマ	講師 名	参加者数 名
関 東	1月27日	東京大学農学 部フードサイ エンス棟	農業農村工学におけるスマ ート農業	1	25
九州沖縄	10月31日	福岡市 福岡県中小企 業振興センタ ー	灌漑・土壌物理研究のこれ までとこれから：農研機構 でやったことと九州大学で やりたいこと外1件	2	118

<各支部人材確保・育成・その他行事>

(参加者総数約 49 名)

支 部	開催月日	開催場所	行 事 名	講師	参加者数
京 都	11月21日	奈良市 近畿大学奈良 キャンパス	農業農村工学会京都支部若 手技術者交流会2024	名 —	名 24
九州沖縄	10月30日	福岡市 福岡県中小企 業振興センタ ー	大学・行政連絡会議	—	25

3. 研究部会や委員会による研究集会等の開催

(1) 1 4 の研究部会はそれぞれ次のとおり研究集会等を開催した。

(参加者総数 963 名)

部 会	研 究 集 会 等			
	開催月日	開催場所	行 事 名	参加者 数
応 用 水 理	9月11日	弘前大学文京町キャン パス	企画セッション	名 21
	11月28日	つくば国際会議場	研究集会	
土 壌 物 理	10月18日	明治大学生田キャンパ ス	第63回研究集会	79
	10月19日	明治大学生田キャンパ ス	土壌物理学会第66回 シンポジウム・農業 農村工学会土壌物理 研究部会研修会共同 講演会	130
材 料 施 工	9月12日	弘前大学文京町キャン パス	企画セッション	60
	3月7日	佐賀大学農学部大講義 室	第61回材料施工研究 部会シンポジウム	40
農 村 計 画	9月12日	弘前大学文京町キャン パス	企画セッション	87
	11月7～8日	山形県	研究集会	10

農 業 水 利	2月15日	東京農業大学世田谷キャンパス1号館111教室	研究集会	15
農 地 保 全	9月11日	弘前大学文京町キャンパス	企画セッション	40
畑 地 整 備	9月10日	弘前大学文京町キャンパス	企画セッション	30
水文・水環境	9月11日	弘前大学文京町キャンパス	企画セッション	約100
	11月15～16日	鳥取大学農学部	研究集会	
	11月18日	ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング11Fギャラクシー	研究集会	
農 村 道 路	11月19日	農地整備事業（通作条件整備）巻堀2期地区、広域農道整備事業雫石地区	現地見学会	14
水 土 文 化	6月21日	熊本県山都町	研究集会	24
	9月12日	弘前大学文京町キャンパス	企画セッション	20
資 源 循 環	9月12日	弘前大学文京町キャンパス	企画セッション	
農村生態工学	9月11日	弘前大学文京町キャンパス	企画セッション	60
	12月10日	シャトー・メルシャン 梔子ヴィンヤード（長野県上田市）	現地研修会	10
農業農村情報	9月11日	弘前大学文京町キャンパス	企画セッション	
	3月31日	オンライン	勉強会	
農業農村整備政策	6月28日	オンライン	研究集会	58
	9月12日	弘前大学文京町キャンパス	企画セッション	64
	1月24日	東京大学弥生講堂アネックスセイホクギャラリー	研究会	39

(2) 行事企画委員会は、全国農村振興技術連盟との共催で第 56 回中央研修会を開催した。

期 日 2025 年 2 月 12 日 (水)

会 場 TKP 新橋汐留ビジネセンターおよびオンライン

テーマ 農業農村整備への ICT の導入～調査・設計・施工から営農活用まで～

講 師 45 名 参加者数 622 名 (会場 75 名、オンライン 547 名)

(3) 全国土地改良優良工事等審査会は、2023 年度全国土地改良優良工事等表彰式に併せて農業農村工学実用新技術セミナーを開催した。

期 日 2024 年 6 月 28 日 (金)

会 場 学士会館 202

講 師 基調講演 2 名 フィールド調査 2 名 受賞者 1 名

参加者 66 名

Ⅲ. 学術と技術の評価及び表彰

1. 学会賞、上野賞及び沢田賞の授与

学会賞、上野賞及び沢田賞それぞれの選考委員会を設置して、学術・技術における優れた業績を選考し、2024 年度 (第 73 回) 農業農村工学会大会講演会 (弘前大学文京町キャンパスで開催) 第 1 日 (9 月 10 日) において、次の 30 件に授与した。

【学術賞】 農業水利施設のリスク評価と信頼性設計に関する一連の研究

岡山大学学術研究院 西村伸一

【研究奨励賞】 プロセス型水食モデルの導入による水食対策の精緻化に関する研究

宇都宮大学農学部 大澤和敏

【研究奨励賞】 凍結・融解に伴う土壌中の熱・物質移動現象に関する基礎的研究

三重大学大学院生物資源学研究科 渡辺晋生

【研究奨励賞】 地球化学的手法による地下水資源開発を中心とした一連の研究

農研機構農村工学研究部門 吉本周平

【研究奨励賞】 農業水利施設の補修・補強工法とその材料に対する有効性評価手法に関する一連の研究

島根大学学術研究院 上野和広

【優秀論文賞】 ため池群水利ネットワークにおける各ため池の機能別にみた立地特性および管理上の課題

愛媛大学大学院農学研究科 平石カムイ・武山絵美・小林範之

【優秀報文賞】 地域未利用資源を活用した燃料ブリケットの改良と普及方法

農研機構農村工学研究部門 木村健一郎

中国四国農政局 爲季 誠

森林研究・整備機構森林整備センター 折笠世紀

国際農林水産業研究センター 松本武司

(一社) 全日本畜産経営者協会 神谷康雄

【優秀報文賞】 米の生産費削減を目指した自動走行農機仕様の圃場整備

前 (一財) 日本水土総合研究所 齋藤晴美

農村振興局農村政策部鳥獣対策・農村環境課 市川敬一郎

内外エンジニアリング (株) 古高太規

【優秀報文賞】 WebGIS を用いた農業用ドローンシェアリングシステムの構築

技術士事務所 SoilCares 佐藤 (金子) のぞみ

(株) つじ農園 辻 武史

【優秀報文賞】 明治用水頭首工の漏水事故に対する緊急対応

岐阜大学応用生物科学部 乃田啓吾

三重大学大学院生物資源学研究科 岡島賢治

- (株)ユニオン 千家照・千原 英司
 岐阜大学応用生物科学部 西村眞一・梶川千賀子
 三重大学大学院生資源学研究科 酒井俊典
 岐阜大学応用生物科学部 平松 研
- 【優秀報文賞】 全国での農業用ため池の廃止工事例とその特徴
 弘前大学農学生命科学部 森 洋
 弘前大学大学院農学生命科学研究科 一戸栄美
- 【優秀技術賞】 画像解析を用いたゲート開度監視システムの実用化に向けて
 農研機構農村工学研究部門 中田 達・島崎昌彦・福重雄大・吉瀬弘人・吉永育生
- 【優秀技術リポート賞】 農業高校の生徒による学校周辺河川における水環境調査
 帯広農業高等学校 人見高史
- 【優秀技術リポート賞】 QGIS を用いた整備履歴蓄積作業の課題とその対応
 北海道農政部農村振興局農村計画課 守山耕一・片桐俊英
- 【優秀技術リポート賞】 宮城県における「田んぼダム」の推進
 宮城県農政部農村振興課 大鷲 悠・林 貴峰
 宮城県古川農業試験場 佐藤一浩
 宮城県農政部農村振興課 佐藤文彦・峯田裕昭
- 【優秀技術リポート賞】 排水機場における騒音振動対策の検討
 近畿農政局和歌山平野農地防災事業所 嵯峨直樹
 近畿農政局農村振興部設計課 北園清徳
- 【優秀技術リポート賞】 透水性改良体を用いたため池堤体の安定化工法の開発
 (株)安藤・間 西尾竜文・足立有史
 農研機構農村工学研究部門 泉 明良
- 【優秀技術リポート賞】 ドローン搭載型レーザースキャナーを利用した施工管理
 長崎県五島振興局農林水産部 松本 淳
- 【環境賞】 十三湖土地改良区の環境保全活動
 十三湖土地改良区
- 【歴史・文化賞】 我が国の農業用水・農地・農村の歴史的経緯(瑞穂の国の水土里の軌跡)に係る普及活動
 農村振興局整備部農地資源課 花田潤也
 農村振興局農村政策部地域振興課 富田晋司
 (一社)海外農業開発コンサルタンツ協会 八丁信正
 (一社)農業農村整備情報総合センター
- 【歴史・文化賞】 溜池と井堰を中心とした農業水利施設をめぐる悠久の歴史と民俗・文化に関する学際的論考
 河地利彦
- 【歴史・文化賞】 「国宝」通潤橋及び通潤用水に係る歴史的意義の総合的解明
 山都町教育委員会
- 【地域貢献賞】 官民連携による新潟県亀田郷地区に建設された鋼矢板排水路の保全対策に関する一連の取組み
 (株)信越測量設計
 亀田郷土地改良区
 新潟県農地部
- 【地域貢献賞】 大川原地区棚田地域の保全活動
 大川原地区棚田地域振興協議会
- 【地域貢献賞】 農業・農村を未来につなぐ「水土里キッズのわくわく探訪」
 秋田県土地改良事業団体連合会
- 【メディア賞】 ソーシャルメディアを活用した広報活動の取組み
 宮城県農政部農村振興課
- 【功労賞】 農業農村整備の推進に関する技術振興と技術者育成への取組
 今井浩一
- 【上野賞】 直轄災害復旧事業「勇払東部地区」の早期復旧の取組

厚真町土地改良区、厚真町、北海道開発局室蘭開発建設部
【上野賞】 愛媛県における樹園地整備
愛媛県農林水産部農業振興局農地整備課
【沢田賞】 生態系サービス評価・シナリオ分析による地球環境の持続的な利用・管理に
関する一連の研究
東京大学大学院農学生命科学研究科 橋本 禪
※今年度、技術奨励賞、著作賞、教育賞、国際貢献賞の該当はなかった。

2. 全国土地改良優良工事等表彰

全国土地改良優良工事等審査会を設置して、優良工事等の中から最優秀賞を選定し、6月28日に学会会館において、次の1件に授与した。

授 賞 者：鹿島建設株式会社

対象工事：2023年度北陸農政局長表彰

新川流域二期農業水利事業 新川河口自然排水樋門建設工事

3. 他学術関係団体への賞等の推薦

学術振興のため、また存在意義を強化するため、文部科学大臣賞若手科学者賞、日本農学会賞、日本農業工学会賞に候補者を推薦した。その結果、京都大学の藤原正幸教授が日本農業工学会賞を受賞、小前隆美継続教育機構長が功績賞を受賞、佐賀大学の近藤文義教授、高知大学の佐藤周之教授、東京大学の高木強治教授、京都大学の武山絵美教授、大阪公立大学の堀野治彦教授、帯広畜産大学の宗岡寿美教授、東京大学の吉田修一郎教授が日本農業工学会フェローを受賞した。

IV. 学会誌、その他農業農村工学に関する資料、図書の編集・刊行

1. 学会誌の発行

委員長ほか委員等27名、専門委員67名による学会誌企画・編集委員会を編成し、3回の本委員会と20回の編集に関連するメール会議、表紙写真の小委員会を開催し、第92巻第4号から第93巻第3号までの12冊を発行した。本文は合計1001頁で、前年度と同様に主として小特集形式で編集した。農業農村工学分野における社会貢献や対外発信を紹介する小特集として、第92巻第4号「農業農村工学が主導する持続可能な開発目標SDGs」、第92巻第9号「農業農村工学の魅力発信」を掲載した。最新の解析技術を紹介する小特集として、第92巻第10号「進化するシミュレーションモデル」、第93巻第1号「農業農村工学分野におけるAIの活用」を掲載した。令和6年能登半島地震後の復旧・復興に向けた取り組みを紹介する小特集として、第93巻第3号「令和6年能登半島地震の被害と課題」を掲載した。前年度に引き続き、民間事業者による農業農村整備事業の生産性向上に貢献する技術開発を紹介する小特集として、第92巻第12号「現場で活躍する新技術（Ⅲ）」を掲載した。

2. 論文集の発行

委員長ほか委員10名による論文集企画・編集委員会を編成し、1回の本委員会及び各論文についてオンライン会議をそれぞれ開催して78編の論文等の審査を行い、逐次オンラインジャーナルに掲載するとともに、第318号と第319号の2冊を発行した。本文は合計397頁で、研究論文30題、研究報文8題、研究ノート4題の合計42題を掲載した(2024年1月～12月で整理)。

3. PAWE 誌の発行支援

PAWEES（国際水田・水環境工学会）による PAWE（Paddy and Water Environment）誌の編集・発行の調整、投稿の啓発、並びに購読者の確保と配付等を支援した。PAWE 誌はオンラインジャーナルであり、Vol.22 No.2 から Vol.23 No.1 までの 4 冊が発行された。ARTICLE 47 題、TECHNICAL REPORT 1 題、Short Communication 1 題の合計 49 題を掲載した。またインパクトファクターは 1.9 となり、国際ジャーナルとしての位置づけが確立している。

4. その他農業農村工学関係図書の企画・編集・刊行と既刊図書の増刷等による技術の普及

土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」、設計「頭首工」「農道」の改訂版を発行し、残部の少なくなった「資格試験のための農業農村工学必携」、「農業農村工学標準用語事典」、「清らかな水のためのサイエンスー水質環境学ー」、土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「ほ場整備（水田）」、設計「水路工」、土地改良事業計画指針「農地開発（改良山成畑工）」の既刊図書の増刷発行を行い、技術の普及を図った。

V. 学術と技術の学際的な連携協力

1. 行政と大学の連携強化についての調査、支援

行政と大学の連携をより一層図り、学会の活性化を進めるため、行政（国等）から大学教員への農業農村整備に係る研究資金等の強化が図れるよう、行政との連携強化を関係方面に要請した。

その一方、大学の抱える課題を理事会や行政と共有し、多様な連携が年々進展し、これまで以上に連携協力が図られた。

2. 農業農村整備事業に関する受託等研究

学術と技術の検討に関する調査研究業務として、農業用ダムの設計・施工・管理技術の高度化、放射性物質で汚染された地域の汚染拡散防止対策技術、土地改良施設管理基準の改定等に関する 4 件の委託等を受け、研究を実施した。実施に当たっては、農業農村工学以外の専門領域とも連携し、それぞれ専門の学識経験者からなる委員会を組織して対応した。

3. 災害対応等、自主的調査・研究

1 月 1 日に発生した令和 6 年能登半島地震に関して、石川県立大学と新潟大学が自主的行った調査を支援し、その成果を 9 月 11 日（大会 2 日目）に開催した報告会において報告し参加者への周知を行った。また、学会誌の口絵による速報や小特集を組んで復興の支援に務めた。なお、前年度 3 月までに農道橋、パイプライン、集落排水施設に農林水産省の要請を受けて被害把握や応急対策などの支援をしたことも含めて、令和 7 年 3 月 14 日付で農林水産大臣感謝状を授与された。

また、各研究部会は、それぞれの関連学協会と連携協力して自主的な調査・研究を実施した。

4. 関係学協会との各種会議の共催・後援等

次の 21 件の行事について、共催・後援等を行った。

また、人材の育成、確保等について他の団体とも連携協力を行いながら、様々な取組みを行っており、その一環として、（一社）土地改良建設協会が実施した「国営事業地区等フィールド調査学生支援事業」や「農業農村工学系の大学生のための技術研究所の見学会」について支援を行った。

行 事 名	主催者名	開催年月日	種別
1. 第26回（2024年）日本水大賞	日本水大賞委員会、 国土交通省	2024. 04. 01 受賞者発表	後援
2. 第61回アイソトープ・放射線研究発表会	公益社団法人 日本ア イソトープ協会	2024. 07. 03 ～05	協賛
3. 令和6年度 農業農村整備サマーセミナー （第60回）「ため池の防災、管理・保全」	全国農村振興技術連盟	2024. 08. 27	後援
4. 第 40 回 ファジィ システム シンポジウ ム（FSS2024）	日本知能情報ファジィ 学会	2024. 09. 02 ～04	協賛
5. 第67回 理論応用力学講演会	日本工学会・理論応 用力学コンソーシア ム	2024. 09. 03 ～06	共催
6. 日本混相流学会 混相流シンポジウム 2024	日本混相流学会	2024. 09. 04 ～06	協賛
7. 第67回 粘土科学討論会	一般社団法人 日本粘 土学会	2024. 09. 04 ～06	後援
8. 2024年度土壌物理学会大会	土壌物理学会	2024. 10. 19	協賛
9. 令和 6 年度 ADCA セミナー「国際協力と いう選択～多様な人材が支える国際協 力の現場～」	一般社団法人 海外 農業開発コンサルタ ンツ協会	2024. 10. 19	後援
10. 第 16 回「梶木賞」論文の募集	全国農村振興技術連 盟	応募〆切 2024. 10. 25	後援
11. GPS/GNSSシンポジウム2024	一般社団法人 測位航 法学会	2024. 10. 30 ～11. 01	協賛
12. SCIS&ISIS2024	日本知能情報ファジィ 学会	2024. 11. 09 ～12	協賛
13. 2024年度 計算力学技術者(CAE技術者) 資格認定事業	一般社団法人 日本 機械学会	認定試験日 2024. 11. 17 24, 29, 30 12. 01, 05, 06	協賛

15. 公開シンポジウム「環境 DNA 分析で斬る！ 侵略的外来種」	農研機構、 一般社団法人 環境 DNA 学会	2024. 12. 01	後援
16. 令和6年度講習会「測量設計分野における三次元データの活用」	公益社団法人 土地 改良測量設計技術協 会	2024. 12. 03	後援
17. 未来へつなごう！ふるさとの水土里（みどり）子ども絵画展2024	全国土地改良事業団 体連合会、都道府県 土地改良事業団体連 合会	2024. 12. 04 ～11	後援
18. 令和 6 年度 田園自然再生活動の集い	一般社団法人 地域 環境資源センター、 田園自然再生活動協 議会	2024. 12. 11	後援
19. 第33回 微粒化シンポジウム	日本液体微粒化学会 、一般社団法人 日 本エネルギー学会	2024. 12. 17 ～18	協賛
20. 日本エネルギー学会 第20回バイオマス科学会議	一般社団法人 日本 エネルギー学会 バ イオマス部会	2024. 12. 18 ～20	協賛
21. 第 16 回 岩の力学国内シンポジウム	一般社団法人 岩の 力学連合会	2025. 01. 14 ～16	協賛

5. 関係学協会との研究情報交換

日本農学会、日本農業工学会等の関係学協会に加盟、あるいは活動に協力し、幅広い学術・技術の研究情報交換を行った。

6. 関係学術・技術団体への代議員・委員会委員の推薦

日本学術会議、日本農学会、日本農業工学会等の学術団体や農業農村整備関係の技術団体に代議員や委員会委員等を推薦し、学術と技術の学際的な連携協力を推進した。

VI. 学術と技術の国際交流

1. 海外関係機関との学会誌・論文集等の文献交換

学会誌は 28 機関、論文集は 47 機関、全体で 55 機関との間で継続的に文献を交換した。

2. 国内外及び国際的関連学会等との学術・技術の交流

韓国農業工学会(KSAE)と台湾農業工学会(TAES)との間で、アジアモンスーン地域における持続可能な水資源と環境の管理等に関する情報交換を行った。

3. 水田農業地域における農業工学の技術者育成に関する国際交流

10月23～25日に台湾台中市で開催されたPAWEES International Conference Taichung 2024国際会議において、関係国で技術者育成に向けた情報交換を行った。

4. PAWEES活動の支援

PAWEESの理事学会としてPAWE誌の出版のほか、次のとおりPAWEES International Conference Taichung 2024国際会議及び国際賞授賞式の開催を支援した。

日時 2024年10月23日（水）～25日（金）

場所 Fong-Yi Conference Center

参加者 220人（対面）12カ国・地域

現地研修 白冷圳（Baileng Canal）、阿罩霧一圳（A-Zhao-wu Canal）

テーマ Integrating the Water-Energy-Food Nexus for Sustainable Agricultural Advancement（持続可能な農業の発展に結びつく水、エネルギー、食料の統合）

国際賞

- ① Dr. Taeseon Park（韓国）
- ② Dr. Tsai Sheng-Fu（台湾）
- ③ 池浦 弘（国際農研）
- ④ 平松和昭（九州大学）

論文賞

- ① 沢田賞
Wen-Cheng Liu（台湾）、Chun-Kai Chung, Wei-CheHuang
- ② 論文賞
Taehwa Lee（韓国）、Won Seok Jang, Beomseok Chun, Mirza Junaid Ahmad, Young hun Jung, onggun Kim, Yongchul Shin
- ③ 論文賞

久保田滋裕（九州大学）、西田和弘、吉田修一郎

査読者賞

- ① 佐藤賞
藤原洋一（石川県立大学）
- ② 丸山賞
Dr. Shao-Yiu Hsu（台湾）

若手研究者賞

- ① Dr. Jung-Hun Song（韓国）
- ② Prof. Cheng-wei Yu（台湾）
- ③ 浅田洋平（筑波大学）

VII. 学術と技術の広報

1. 学会誌、ホームページ及びメールマガジン等により提供

毎号の学会誌、ホームページにおいて、各種行事や公募事項の案内などの情報提供を行った。また、メールマガジンにより、会員、非会員を問わず情報提供を行った。

さらに、農業土木系の農業高校65校、全国専門学校土木教育研究会に属する14校に学会誌の提供を行った。

2. 大学生のためのLINE公式アカウントによる情報発信

若手人材の確保と育成のため、連携協定を締結している土地改良建設協会主導の下に「大学生のためのLINE公式アカウント」で情報提供を行った。友達登録者数は、1,970名を超えている。

3. 会員の意見、要望等を把握し、学会活動等に反映

Web アンケートシステムにより会員等の意見、要望を把握して学会活動等に反映すると共に、学会誌会告欄で支部や研究部会の活動情報の周知に努めた。

4. 関係学協会等との文献の交換

学会誌は 171 機関、論文集は 23 機関、全体で 188 機関との間で継続的に文献を交換した。

Ⅷ. 関係図書その他資料の収集、保管、活用

1. 関係図書・資料の収集、整理、利活用

農業農村工学関係図書・資料について、交換資料と購入資料を収集・整理した。また、学会誌に年表を掲載するための資料の収集、分類を行った。収集資料は、訪問者の閲覧に供し利活用を図った。

2. 科学技術振興機構による J-STAGE への掲載

科学技術振興機構(JST)の総合電子ジャーナルプラットフォーム(J-STAGE)に掲載されていない学会誌報文第 90 巻を掲載するとともに、論文集の研究論文等 40 本を掲載した。

3. 科学技術振興機構への情報提供

科学技術振興機構に、学会誌、論文集、学会大会講演会及び支部研究発表会の講演要旨集の情報を提供した。

4. 農林水産研究情報総合センター事業「AGROPEDIA」への情報提供

農林水産研究情報総合センターから掲載依頼を受け、農業農村工学会誌（第 89 巻第 4 号～第 90 巻 3 号）及び農業農村工学会論文集（第 312 号～第 313 号）の情報を提供した。

Ⅸ. 技術者教育認定及び技術者の継続的研鑽の支援

1. 日本技術者教育認定機構(JABEE)の審査認定及び普及指導活動

農業工学及び関連のエンジニアリング分野の審査・認定活動を推進する学協会として、JABEE 認定審査を行うとともに、「JABEE 25 周年記念大会」（2024 年 6 月 5 日 建築会館ホール）において『これからの JABEE について』をテーマに各分野代表者が発表を行い、農業工学関連分野からは小泉専務理事が『持続可能な農業農村工学教育のために求められるもの』と題して、技術士を育てる新たな取り組みとして技術士 IPD に関わる研修を JABEE が認定・公表する仕組みを提案した。

なお、JABEE のメリットを活かす対策として学会の要請等を受けて 2020 年度より(公社)土地改良測量設計技術協会は、資格制度を運用する「農業土木技術管理士」資格試験において、JABEE 修了生は第一次試験を免除し、併せて 2024 年度からは受験資格の実務経験年数を 3 年短縮する特例措置の対象となっている。

また、2025 年度より、JABEE 認定校が負担する「審査料」と「認定維持料」の増額・平準化(6 年=1,925 千円(税込)→2,772 千円(税込))の決定を受け、JABEE 認定校の負担軽減策を関係団体と連携して検討した。

＜2025 年 4 月時点での JABEE プログラム：13 教育機関 13 プログラム＞

弘前大学 農学生命科学部 地域環境工学科 農業土木コース[2005]

北里大学 獣医学部 生物環境科学科 環境修復プログラム[2006]

宇都宮大学 農学部 農業環境工学科 水土環境工学及び食料生産システム工学コース[2003]

東京農業大学 地域環境科学部 生産環境工学科 農業工学プログラム[2003]
日本大学 生物資源科学部 生物環境工学科 地域環境工学プログラム[2003]
三重大学 生物資源学部共生環境学科農業土木学教育コース農業土木学プログラム[2005]
神戸大学 農学部 食料環境システム学科 生産環境工学コース 地域環境工学プログラム[2004]
島根大学 生物資源科学部 環境共生科学科 地域工学コース[2006]
岡山大学 環境理工学部 環境管理工学科環境・社会基盤系環境マネジメントコース[2004]
愛媛大学 農学部 生物環境学科 地域環境工学コース 農業土木プログラム[2002]
高知大学 農林海洋科学部 農林資源環境科学科 生産環境管理学プログラム[2005]
九州大学 農学部 生物資源環境学科 生物資源生産科学コース 生物生産環境工学分野
生物生産環境工学プログラム[2005]
琉球大学 農学部 地域農業工学科 地域環境工学コース[2008]

2. 技術者継続教育機構等による農業農村工学分野の技術者育成・継続教育の推進

技術者継続教育機構において、CPD 評議員会 1 回（書面会議）、CPD 運営委員会 2 回、CPD 地方委員会 1 回、CPD 評価委員会 1 回、CPD 通信教育部会 12 回を開催した。

なお、2024 年度末時点での CPD 個人登録者数は 14,634 名、CPD 法人登録者数は 195 団体で、2024 年度内実施の認定プログラム数は 1,508 件であった。

3. 建設系 CPD 協議会における建設系技術者の継続教育活動の支援活動

建設系 CPD 協議会の構成団体として、運営委員会 2 回、専門部会 1 回に出席し、建設系全体の技術者育成・継続教育の推進を図った。

X. その他この学会の目的を達成するために必要な事業

1. 日本学術会議等との連携、交流

2024 年 7 月 30 日（火）に防災学術連携体主催 令和 6 年能登半島地震 7 ヶ月報告会で石川県立大学の森 丈久教授が「能登半島地震による農地・農業用施設の被害」を講演した。

また、福島の再生・復興に関係した日本原子力学会や福島復興・廃炉推進に貢献する学協会の活動とも連携・協力した。

2. SDGs への対応等学会の社会的責任（CSR）活動を推進

学会の理事会、各種委員会、大会講演会、支部研究発表会においてハイブリッド形式を用いて参加しやすい環境整備に努めた。また昨年に引き続き大会講演会における CD 版講演要旨集の作成を廃止しダウンロードにしたことにより、余剰品の製品ロスの削減とプラスチック製品の削減、さらに発送を行わないことによる輸送に関する CO₂ の削減にも貢献した。

学会事務局業務にもテレワークシステムを活用して、職員の効率的な業務運営を図った。さらに、タブレットの活用によりコピー枚数を 10 数%削減し、紙資源の節約や再利用、節電に努めた。また、公益法人としての役割から、役職員による神戸大学農学部の外部評価委員、他の団体の理事・委員長など学識経験者として貢献した。

また、長年の経過により墓石の傾斜等が散見された青山霊園上野博士墓所について、関係団体等の協力により改修を行った。

3. 学会業務の DX 化に向けた取組

学会業務の DX 化に向けてシステム統合の検討を進めた。また、電子出勤簿を本格稼働するとともに、タブレットを積極的に活用し、業務打合せ、理事会及び各種委員会等資料のペーパーレス化に取り組んだ。さらに、昨今多発するサイバー攻撃等に対応するため、新たなセキュリティ対策を行った。

また、これまで FAX による申し込みを取り扱っていた図書注文を廃止し、事務の効率化に取り組んだ。

XI. 法人運営事項

1. 第 57 回定時総会

日 時：2024 年 5 月 29 日（水）14:00～14:50

会 場：農業土木会館 2 階 A 会議室

代議員現在数及び定足数：現在数 125 名 定足数 63 名

出席者：代議員 83 名（うち出席 3 名、書面により議決権を行使した代議員 46 名、委任状により議決権を代理行使した代議員 34 名）

決議事項：

- (1) 2023 年度事業報告
- (2) 2023 年度決算（案）
- (3) 名誉会員の推挙

2. 理事会

理事 20 名（会長 1 名、副会長 3 名、専務理事 1 名、ほか 15 名）及び監事 2 名により、第 279 回から第 283 回まで 5 回の理事会を開催するとともに、必要に応じて担当理事会を開催して多数の決議事項及び報告事項を承認可決した。

(1) 第 279 回理事会

日 時：2024 年 5 月 10 日（金） 14:00～16:10

会 場：農業土木会館 2 階 A 会議室

決議事項：

- ① 2023 年度事業報告(案)
- ② 2023 年度決算(案)
- ③ 2024 年度学会賞、上野賞及び沢田賞
- ④ 会員の入退会

そのほか、活動状況等 16 件の報告を行った。

(2) 第 280 回理事会

日 時：2024 年 5 月 29 日（水） 15:30～15:55

会 場：農業土木会館 2 階 B 会議室

決議事項：

- ① 会長、副会長、専務理事の選定
- ② 理事の業務分担

(3) 第 281 回理事会

日 時：2024 年 9 月 26 日（木） 14:00～15:55

会 場：農業土木会館 2 階 B 会議室

決議事項：

- ① 2024 年度支部大会への本部役員派遣
- ② 会員の入退会

そのほか、活動状況等 18 件の報告を行った。

(4) 第 282 回理事会

日 時：2024 年 12 月 10 日（火） 14:00～15:20

会 場：農業土木会館 2 階 A 会議室

決議事項：

- ① 会員の入退会

そのほか、活動状況等 15 件の報告を行った。

(5) 第 283 回理事会

日 時：2025 年 3 月 13 日（木） 13:55～15:20

会 場：農業土木会館 2 階 A 会議室

決議事項：

- ① 2025 年度事業計画(案)
- ② 2025 年度収支予算(案)
- ③ 第 58 回定時総会の議案
- ④ 名誉会員の推挙
- ⑤ 会員資格喪失予定者
- ⑥ 第 8 期代議員の定数
- ⑦ 会員の入退会

そのほか、活動状況等 11 件の報告を行った。

3. 企画委員会

委員長ほか委員 10 名により、2 回の委員会を開催し、事業計画案と予算案、事業報告案と決算案、その他学会全般の活動・運営について検討を行った。

4. 監 査

2024 年 4 月 18 日、堀田昇克、長坂貞郎両監事が 2023 年度事業報告及び収支決算に関わる全般の監査を行い、その結果を第 279 回理事会並びに第 57 回定時総会に報告した。

5. 会員数

2024 年度及び過去 2 ヶ年度の会員数の動向は下表のとおりです。

区 分	2022年度末	2023年度末	2024年度末	2024年度内 増 減
正 会 員	9,715	9,577	9,500	－77
学 生 会 員	297	301	317	＋16
名 誉 会 員	265	243	248	＋5
計	10,277	10,121	10,065	－56
賛助会員 A 級	30	30	30	±0
〃 B 級	8	8	8	±0
〃 C 級	86	86	86	±0
計	124	124	124	±0

付記事項

2024 年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。